



2019年11・12月号 (No.44)

社会福祉法人白根学園 しらねの里

編集 広報担当

〒241-0001

《白根学園 HP》

横浜市旭区上白根町 1092 番地

TEL 045-954-5210

FAX 045-954-2337

E-mail shirane-sato@shirane.or.jp



～雑感～

しらねの里、しらねの里・げんき、ホーム里
施設長 菅野善也

◇本年も押し詰まってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

恒例のご挨拶の季節となりました。今年一年がどんな年だったか、自分の中で振り返る時が今なのかと思います。年の瀬の慌ただしさと「来年こそは」という決意をする時期という感覚が強いと思いますが、その前に、振り返りがしっかりとできて新たな決意なのではとこの数年感じます。これも、利用者さん個々のモニタリング、アセスメントの重要性が言われ、習慣として身についたからなのかと思います。皆様はいかがでしょう。

◇来年の干支は『子年』です。

“「寝ず身」のように、真面目にコツコツと働き、儉約家といわれ、お金もたまるといわれるそうです。しかし不要なものにはお金を使わないので、度を越すとケチとみられてしまうことも。勘が鋭く、ひらめきもあり、それを活かすと難を逃れられます。また、適応能力が高く、コミュニケーションもうまいので、周囲の人を惹きつけるといわれています。”周囲に子年の方がいるのか確認はしておりませんので実際にどうなのでしょう……。

◇毎年恒例となった今年の漢字一文字について発表がありました。

これについては予想されていた通り「令」ということです。やはり令和の初めに選ばれるべくして決まった文字だと思います。この文字の謂れは元号が決まった時によく解説があった文字ですので今更説明の必要は無いとは思いますが、「令」という文字の意味に「神様のお告げ」というものがありました。象形文字に表すと人がひざまずく姿が変化したという説がありました。古代において自然界のあらゆるものを崇拝する中で、神様からのお告げに従って生活をしてきたという様子がこの一文字になったとすると「令和」という言葉は、調和のとれたことを大切なものと神様が告げたという解釈をすることもできると思います。「令」という一文字から私たちに対して神様はどのようなお告げをしたのか、これから告げられるのか。この1年を振り返り、来年1年を送る為、心新たに静かにお告げを待つのも一つの過ごし方かもしれません。

皆様にとりましてご多幸ある年となりますようにお祈り申し上げますとともに本年一年のご厚情を感謝申し上げます。どうぞよいお年をお迎えください。



里イベント告知欄 ⇒クリスマス忘年会編

日時：12月25日(水)

会場：しらねの里

今年も利用者みなさんに喜んでいただけるように
雰囲気大切にイベントにしていきたいです！！



※昨年度のクリスマス忘年会の様子の一部

◎ 60周年記念にむけて ◎

来年、白根学園は60周年を迎えます。

職員が利用者のみなさんを支えてこられたのは、職員の努力はもちろん、保護者様や地域の方々の温かいご協力があつてこそです。

そこで、職員の公募から決められた、60周年記念のキャッチコピーを作りました。これからも宜しくお願い致します。



◎ みなさんの笑顔集 ◎



正職員・嘱託（パート）職員・ボランティアさん募集中！

正規の支援員・嘱託の支援員補助・宿直職員・調理員など性別・資格問わず、各部署で募集中です。まずは見学して自分に合う仕事があれば是非トライして下さい。

社会福祉法人 白根学園

昭和35（1960）年5月12日、白根学園児童寮は旭区白根7丁目の地に誕生しました。

創業者 三木信之・芳夫妻には、ダウン症の息子さんがいました。当時、障がいゆえに義務教育を受けられないわが子のために、学校教育に代わる場、安心して生活ができる場として、5人の知的障がいのある子ども達と共に白根学園をスタートしました。以来、59年が経過し、13ヶ所の事業所で848人の障がいのある人達に何らかのサービスを提供できるようになりました。常勤310人、嘱託職員等281人は、創業者が掲げ法人の基本理念として残る次の言葉を旨に、自分に課せられた役割を果たしています。「知識より、信仰より、愛を以って第一となす」

